

戦後アジア国際体制の変容過程－脱植民地化、冷戦、自立化

研究者プロフィール

- ・ 文学部 歴史学科 教授 渡辺昭一
- ・ 専攻分野：イギリス・アメリカ近現代史、国際関係史
- ・ 専門分野：イギリス帝国史、アジア開発史
- ・ 所属学会：日本西洋史学会、社会経済史学会、政治経済学・経済史学会、日本国際政治学会、史学会、西洋史研究会、東北史学会
- ・ 経歴：東北大学大学院文学研究科後期課程満期退学

研究内容

戦後アジアの国際体制の変容過程を検討しています。第二次世界大戦後アジアの諸国は次々と独立を果たしたが、政治と経済の両面で自立化を達成することが非常に困難であった。アジアでは帝国の解体＝脱植民地化過程と冷戦の深化過程が同時に出現し、イギリスをはじめヨーロッパ諸国の支配継続の思惑と共産主義拡大防衛に力を注ぐアメリカの思惑が錯綜していた。その体制下で、まず南アジアからは東アジア、東南アジアへと独立・自立化の動きが本格した。

このような歴史に着目して、1945年以降1990年代初頭までの間に、欧米諸国のアジア諸国への関与方法とともに、それを巧みに利用しながらアジア諸国が政治的自立及び経済的自立を図ってきた過程を、政治、経済、軍事面から研究をしている。

関連キーワード

脱植民地化、帝国の解体、冷戦、アジア諸国の自立化

地域・産学官連携の可能性、事業化のイメージ 他



左に示したような編著の内容をもとに、公開講座や研究会を通じて、研究内容を紹介することが可能である。

研究者への連絡先

swatanabe@mail.tohoku-gakuin.ac.jp